

中島公園魅力アッププランの検討について

1 概要と課題

公園の概要	【所在地】	札幌市中央区中島公園、南14条西5丁目（ほか）
	【種別】	総合公園
	【面積】	236,295㎡
【変遷】		
明治 4年（1871年）	豊平川から流送される木材を貯める 貯木場 として利用	
明治20年（1887年）	太政官布達（国内初の公園制度）での 札幌初の公園 として「中島遊園地」設置	
明治40年（1907年）	東京市嘱託技師 長岡安平が中島公園を設計 清流や池・藻岩山への眺望を活かし、自然の風致を織り込んだ「 池泉回遊式 」の庭園として設計される	
大正 7年（1918年）	開道50年記念北海道博覧会開催	
昭和24年（1949年）	中島球場 整備（昭和55年廃止） 中島児童会館設置	
昭和32年（1957年）	総合公園として告示	
昭和33年（1958年）	北海道大博覧会開催 （ 豊平館 移設 子供の国 開園）	
平成 5年（1993年）	中島公園再整備構想策定	
平成 6年（1994年）	子供の国廃止（翌年 円山動物園に移転）	
平成 7年（1995年）	再整備工事開始 Kitara 建設（～平成9年完成）	

長岡による設計図

背景

札幌市では2030年度に北海道新幹線開業が予定され、中島公園周辺ではマンション等の建築による定住人口の増加に加えて、新MICE施設やホテル建設が予定されるなど、新たな土地利用転換の機運が高まっている。

また、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンでは、集客・交流機能や芸術・文化機能の強化を図る新たな高次機能交流拠点の形成を目指している。

課題

中島公園は、豊かな自然と貴重な文化施設が多様な楽しみを生む、魅力溢れる都市空間である一方、一部施設の老朽化や、地下鉄幌平橋駅出入口の駐輪場の飽和状態といった課題に加えて、公園の魅力を活かした設えや情報発信が不足している。

また、周辺環境の変化による多様な人々のニーズに対応した設えや取組にも課題を抱えている。課題解決にあたっては、公園の特徴を活かしつつ、周辺のまちと連携・調和を図り、子どもから大人まで、来街者も含めた多様なライフスタイルを支える快適性の高い環境整備が求められる。



春の中島公園（園路）



秋の中島公園（日本庭園）

2 考慮に入れる主な事柄

歴史性、位置付け	従来からの役割	周辺のまちづくりの動向	第2次まちづくり戦略ビジョンの位置づけ	公園に求められる社会的要請
<ul style="list-style-type: none"> ○ 明治20年に「中島遊園地」として整備 ○ 明治40年に長岡安平が「池泉回遊式」の庭園として設計 ○ 北海道博覧会、国民体育大会の会場となるなど、時代に即した整備 ○ 平成の再整備では、豊かな緑地空間として芸術・文化の拠点を形成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都会の喧騒から一線を画すみどり豊かな憩いの空間 ○ 藻岩山への優れた眺望である景観軸 ○ 芸術・文化が感じられ、体験できる空間 ○ さっぽろまつりなど多くの人々が訪れるイベントが開催される賑わいの空間 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想 <ul style="list-style-type: none"> ・公園に隣接する民間ホテルの敷地にMICE施設の整備構想 ・質の高い宿泊機能の誘致 ・アフターMICEや夜間観光の魅力向上に資する環境の充実 ・地区に点在する地域資源を活用するための情報発信と快適に街歩きを楽しめる歩行空間の確保 ○ 豊水通沿道の民間敷地（2カ所）での高級ホテルを誘致した開発事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中島公園周辺エリアを新たに集客・交流機能や芸術・文化機能の強化を図る拠点として、高次機能交流拠点に位置づけ ○ 国際的・広域的な観点を持った都市機能の高度化や集積に向けて、民間活力を生かしながら、必要な都市基盤・施設の整備などを行う ○ みどり豊かな都心を形成するため、公園などにおけるみどりの整備・改善に取り組むとともに、再開発の機会を捉え、官民連携による効果的なみどりの創出をすすめる 	<ul style="list-style-type: none"> <環境> みどりの確保のほか、省エネ、リサイクルなど、脱炭素化に資する公園づくり <ユニバーサル> 誰もが利用しやすい公園づくり <ウォーカブル> 歩いて楽しい街づくりに資する公園づくり <防災・安全> 長く安全に利用できる老朽化対策や防災機能を一層高めた公園づくり <デジタル> デジタル技術と連携した未来型の公園づくり

3 3つの方向性と具体化に向けた検討の視点

方向性1 今あるみどりや芸術・文化を磨き高める

検討の視点

- ① 歴史性や季節ごとの魅力の再確認
- ② みどりと芸術・文化が相乗効果を生む取組
- ③ 日常的な利用環境の充実と情報発信

方向性2 新たな機能により魅力を向上する

検討の視点

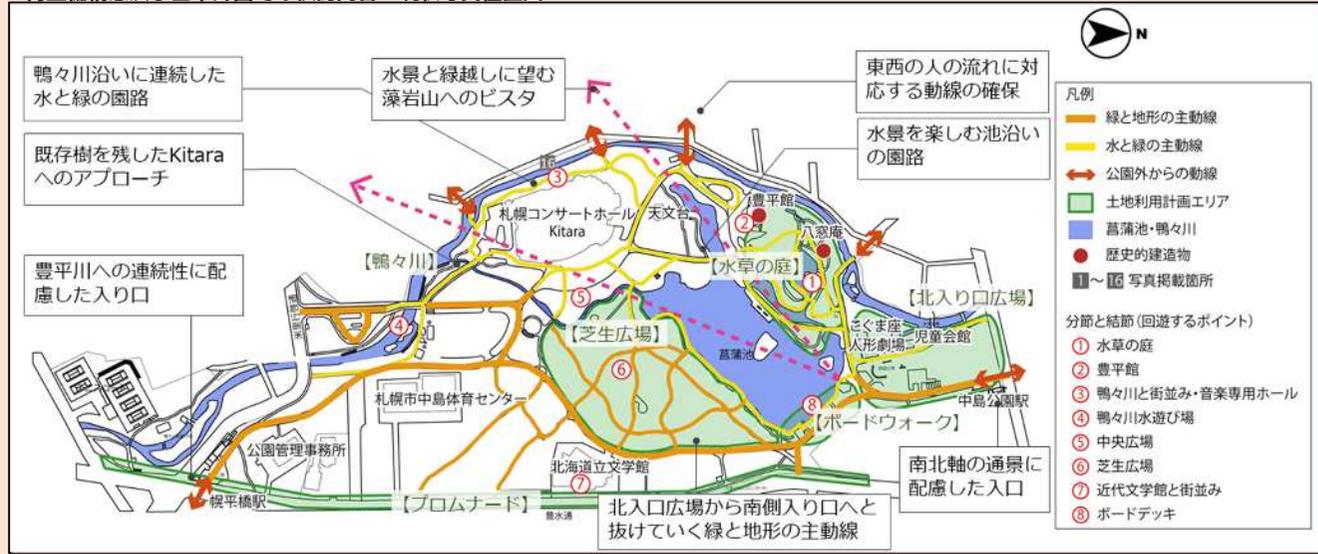
- ① 市民の日常利用を基本に来街者のニーズにも応える機能
- ② 子どもや若者が訪れたいくなる機能
- ③ 冬も魅力的で利用者呼び込む機能

方向性3 周辺エリアも含めて活性化させる

検討の視点

- ① 周辺事業者による公園の活用
- ② 公園と周辺事業者との連携
- ③ 周辺に波及させる公園の魅力
- ④ 周辺と補完関係を築き回遊機能を高める公園運営

▶再整備構想及び基本計画での検討内容・現状写真位置図



1. 歴史性や季節ごとの魅力の再確認

【中島公園の歴史性】

- ▶中島公園の姿遷
 - 貯木場から池泉回遊式庭園へ、博覧会会場に活用されるなど、様々な役割を担い、開拓期からの歴史性を受け継いできた公園
- ▶平成の再整備(平成7年～平成10年)
 - コンセプト:「都心の芸術文化・歴史ゾーン」として、都心部の発展に呼応しながら、歴史・文化・芸術が水と緑の中に重層化する公園
- ▶札幌市都心のみどりづくり方針(令和5年10月策定)
 - エリアとしての役割や公園の歴史を踏まえた取組の位置づけ

【季節ごとの魅力の「再確認」】



●平成の再整備のコンセプトは現在でも活かされており、**植栽・水景・景観により季節ごとの魅力がある一方で、その魅力のすべてを伝えきれていない**

●一部、**込み入った植栽などが立ちよりにくく雰囲気となり、利用者の集まる場・休息の場に偏りがある**

●再整備のコンセプトを継承する一方で、**季節ごとの魅力をより多くの来園者に伝えるために、改善すべきことはなにか**

●**利用者が公園内を回遊し、たたずむ場を提供することで、より多くの魅力が伝わるのではないか**

2. みどりと芸術・文化が相乗効果を生む取組

【みどり(指定管理者)】

▶札幌市公園緑化協会
○主な取組状況
キッチンカー事業/生き物観察会/ゆきあかり/さっぽろまつり/さっぽろランタンフェス/灯籠流しなど



▲ゆきあかり

【芸術・文化(各施設)】

豊平館	観覧/貸室/料理・工作室/歴史文化系講座/喫茶
文学館	展覧会/物販/喫茶/読み聞かせ/講演会/書籍のフリーマーケット
天文台	星空解説/子供講座(豊平館の★解説)
児童会館 こぐま座	人形劇の上演と人材育成/かもくまつ祭/ピクニックシアター/野外人形劇
Kitara	主催公演/貸館/レストラン・カフェ
中島体育センター	教室実施/一般開放/歩くスキー事業/さっぽろ街ラン/鴨々川ごみ拾い



▲冬の野外劇場

●各施設が様々な活動を行っているが、**連携事業は少ない**

●**目的以外の施設を訪れるきっかけとなる事業が少ない**

●中島公園地域コミュニティ推進協議会が十分に機能を発揮していない

●**連携事業により、目的施設だけでなく公園全体の魅力に気づききっかけを作れないか**

●**連携事業実施のための体制が必要ではないか。また、どう構築するか**

●**管理事務所にインフォメーション機能やパークセンター機能を持たせることが必要ではないか**

3. 日常的な利用環境の充実と情報発信

【日常利用】



- ベンチ(123基)
- シェルター
- 散策路
- 園路灯
- ベンチの配置・テーブルの不足・樹木の過密化により見通しが悪い
- 散策路がわかりづらく、季節ごとの魅力が伝わるライトアップがされていない
- 指定管理者からのSNSでの情報発信や公園全体の情報発信がない
- 来園者に対して情報発信・提供できる仕組みとなっていない

【情報発信】

- ▶指定管理者
 - 札幌市公園緑化協会ホームページ
 - 中島公園リーフレット
 - 中島公園三十三選
- ▶札幌市の観光・文化関係
 - よっこそSAPPOROホームページ
 - SAPPOROぶらり手帖 中島公園界限
- ▶市民からの情報発信
 - 中島公園パーフェクトガイド「中島パフェ」
 - たびらい
 - 公園周辺ホテルでの紹介

課題

考察

検討会での主な意見

- ①歴史性や季節ごとの魅力の再確認 ③日常的な利用環境の充実と情報発信
- the中島公園はどこか。目玉を作り、集中的にPRしてそこから回遊を促すことも重要。
- 鴨々川の存在は、昔市内にあった川の痕跡を知れる非常に重要な景観的ポイント。
- 藻岩山への景観は今の建築基準法や都市計画で守れるのか、その担保が必要。
- 何か象徴的なものを作って宣伝したり、大きな方針転換ではなく、歴史や良さを継承できるように、地道な取組や市民に愛されることを考えていくべき。
- ライブカメラの設置やARを活用したイベントの誘致なども面白い。
- パークセンターを南9条の北入口広場付近に置くべき。
- 記念植樹などで苗木で植えたものが大木化しており、間引きが必要。
- 札幌の河川や池を現代に伝える、貴重な公園としてのストーリーの発信等が考えられる。

②みどりと芸術・文化が相乗効果を生む取組

- 公園が持つブランド力を高めることが一番のメインであり、来園者が各施設の内容や取り組みを知り訪れるきっかけとなればよい。
- 公園の面白さの一つに、予測できなかったことに会うということもある。
- 園内に様々な主体の建物が存在しているので、公園と施設の一体的な運営は必要。
- 中島公園地域コミュニティ推進協議会の構成員にも今回の資料等を共有して意見を伺っておくと議論が活性化してくるのではないかと。
- 周辺施設も含め、実際に訪れた際にどういう過ごし方ができるか現状を整理すべき。
- こぐま座の市民ボランティアのように市民が活動する場とするのはどうか。

＜その他＞

- 南9条がボトルネック。民間事業者も含めて一体的なマスタープラン等が必要。
- 公民館や中央図書館、アリーナが当公園にあっても良い。公園の活性化につながる。
- ヤングアダルト世代に向けたアプローチも視点に加えた方がよい。
- 体育センターやテニスコートが公園におしりを向けているのは、改善の余地がある。

1. 市民の日常利用を基本に来街者のニーズにも応える機能

1-1.市民・来街者のニーズ

▶来訪者の状況

- ・さっぽろまつりの6月が最多、冬場は夏場の2/3程度
- ・20～30代の利用が少なく、70歳以上が多い
- ・約9割が札幌市民で、市外からの来訪者は1割程度
- ・滞在時間は1～2時間が多い

▶アンケート (R元年) から見る利用の状況

- ・散歩や休養目的での利用者が最多
- ・公園の好きな場所やよく行く場所は、菖蒲池、日本庭園が多い

▶届出及び申請から見る利用の状況 (R4年度)

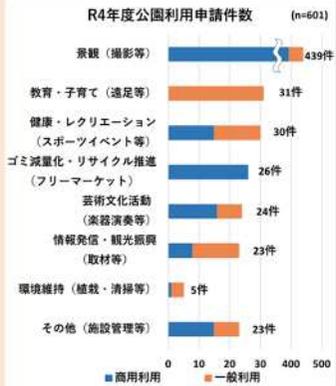
- ・商用写真撮影等の景観利用が最多
- ・企業利用が約7割で、写真スタジオ関係が最多
- ・撮影での利用は5月と10月が多く、桜や紅葉等の景観を求めて利用されていると考えられる

▶利活用のニーズ (R元年アンケート)

- ・望ましい施設やサービスとして「飲食を楽しめる機能」が最多、次に「休憩施設」「雨天・冬季に集える屋内スペース」が多かった。

▶観光動向 (R4年度新千歳空港観光客動態調査)

- ・札幌滞在中の目的や楽しみとして、国内観光客は「美味しいもの」が最多、外国人観光客は市内の観光地や景色・景観目的の人も多い
- ・夏季は「景色や景観」を楽しみに訪れる人の割合が増える
- ・総合的な満足度は、国内外観光客ともに冬季が高くなる傾向がある



- 若者、冬、来街者の利用者が少なく、滞在時間も短い傾向にある
- 利用者のニーズに応える機能、来街者への案内やサービスの不足
- 利用しづらい飲食等の施設
- 樹木による見通しの悪さ

- 市民が日常利用しやすく、中島公園に合う飲食施設や滞在時間を延ばす機能とは何か
- 市民にも来街者にも利用されるパークセンターとはどういったものか
- 魅力的な景観を利用者により感じてもらえる樹木管理とはどういったものか
- 民間事業者をどのように活かしていくか

1-2.市民・来街者のニーズに応える機能

<案内機能>

- ・案内板・誘導サインが見づらく、気づきにくい
- ・誘導サインは、二カ国語標記と五カ国語標記が混在

<みどり>

- ・見通しを阻害する樹木、藻岩山への眺望を隠す樹木

<公園のトイレ>

- ・新旧トイレが混在。利用頻度に差がある。

<飲食機能>

- ・各施設の飲食店は、施設の訪問者以外が訪れにくい雰囲気や敷居が高い印象
- ・食堂(花月)は、一定の利用者が見られるが、老朽化が進んでいる



▲見通しを阻害する樹木

<貸しポート乗り場>

- ・民間事業者所管の施設
- ・明治時代からポート及び食堂を代々営業
- ・公園用地取得の際に自宅は公園外に移転、ポート・食堂の営業は引き続き許可
- ・今後の営業は、適宜事業者側と協議
- ・原則、営業終了後は更地にして本市へ返却
- ・施設は現時点で築50年超



▲貸しポート乗り場

<公園管理事務所>

- ・平成8年開設 (築27年)
- ・平成29年公園施設長寿命化計画においてB判定
- ・入口がわかりにくく、認知されていない

検討会での主な意見

<①市民の日常利用を基本に来街者のニーズにも応える機能>

- ・市民に寄り添った身近な文化を豊かにする公園、その中に観光客が入ってくるイメージ。
- ・池泉回遊式公園だが、池を見せる仕掛けがない。池の視点場の形成等、今ある魅力を活かせる空間デザインを考えるべき。
- ・メインストリートを工夫し、利用しやすさを向上させる。
- ・自然観察の場所や若者向けにeスポーツ等の新たな施設等の設置はどうか。
- ・民間の知恵やアイデアを使い、民間の出資による施設更新などで魅力アップしてもらおうという考え方がよい。
- ・飲食施設は利用者から見た時に、指定管理者が分かれていることも弊害。
- ・公園の景観を楽しみながら、札幌を楽しめる施設は大切。稼ぐポテンシャルも十分にあるが、MICE施設も大切な要素。
- ・新たな機能の誘致を検討するなら、エリア全体での都市公園や類似施設の配置も考慮に入れるべき。
- ・市の体育施設配置計画と当公園での体育施設の位置付けは整合しないのでは。
- ・公園用地が施設用地に浸食されてきたことの弊害や課題を考えるべき。
- ・芸術文化に加え、流行物が置かれる場所でもあり、統一されたコンセプトや公園のあり方からのストーリーを感じない。

<②子どもや若者が訪れたいくなる機能 ③冬も魅力的で利用者を呼び込む機能>

- ・公園管理に新しい形態で市民や子どもが関わることで、空間への愛着が深まり、利用の満足度にもつながっていく。
- ・若者活動センター等の利用者からも意見をもらうとよい。
- ・女性のトイレ利用が少ない状況やその理由も考えていく必要がある。
- ・Park-PFIの候補地ではあるが、指定管理が合わさると収益のみに公園が使われる。特殊な枠組みの組織が必要では。
- ・スケートなど大きな道具を使わずに楽しめるものは嬉しい。
- ・アリーナが中島体育センターのところにてできれば、幌平橋駅からすすきの駅の方に流れるという客の分散もよい。

<その他 マネジメント体制>

- ・一つの主体が施設も含め全ての管理や情報発信を行うことが理想だが、今の体制のまま横のつながりだけ作っても難しい。
- ・指定管理者に取り組んで欲しいことを再度検討すべき。
- ・公園と施設を統括するマネジメント組織、お金のマネジメントも必要。公園管理者が収益を上げて施設管理費を捻出していくべき。
- ・連携した管理には市が一定程度リーダーシップを発揮していく必要がある。
- ・公園に公道や神社が被っており、広い視点での管理が必要。
- ・公園管理者が公園の一番奥にあり、利用者との関わりが少ないことが課題。

2. 子どもや若者が訪れたいくなる機能

■ 児童会館・こぐま座のイベント

- ・日常利用 幼児親子～小学生対象の各月の行事 (読み聞かせ、工作等) / 人形劇の上演 (土日祝)
- ・年に数回 あおぞらキッズシアター
- ・年に1回 かもちま祭 (開館記念日祭り) / ピクニックシアター (園内4カ所に小規模な舞台を設置) / 野外人形劇 (ゆきあかりとタイアップ)



▲かもちま祭

■ 遊具設置状況・他子どもの遊び場

<児童会館前>

- ・児童会館の室内利用と一体的に利用されている
- ・一部部品が破損状態の遊具もある
- ・遊具のある公園が周辺になく、地下鉄で来る人もいる



▲児童会館前複合遊具

<鴨々川水遊び場>

- ・公園のメイン部分と道路で分断されており、遊具の利用者は少ない

■ 若者が楽しめるイベント

- ・さっぽろまつり / さっぽろ焼き芋テラス / かつろぎVILLAGE / さっぽろランタンフェス / Pokémon GO Fest



▲さっぽろ焼き芋テラス

3. 冬も魅力的で利用者を呼び込む機能

日常利用



▲北入口広場の雪だるま



▲天文台前そり遊び



▲歩くスキー

イベント利用



▲児童会館前滑り台



▲ナイトクロカン



▲かつろぎVILLAGE

- 長時間の滞在を楽しめる機能が不足
- 児童会館・こぐま座・遊具・自然等恵まれた条件を活かした取組が不足
- イベント以外に若者が訪れたいくなる機能は特に考えられていない
- 冬の公園を日常的に利用するための施設や取組の不足

- 通年で長時間滞在を可能とする施設や取組とは何か
- 園内施設と連携し、相乗効果による遊びを生む機能や、若者が訪れるための新たな機能とは何か
- 冬場の景観も含めた魅力づくりに考えられるものは何か

▶中島公園周辺の事業者位置図



1. 周辺事業者による公園の活用

▶周辺ホテル宿泊客の公園活用状況
(ヒアリングより)

○宿泊客のニーズ

- ・ビジネスではなく観光目的
- ・「静かて良い」という理由で選択されている
- ・日本文化を感じるものやその土地に根づく行事を求める人が多い
- ・本州からの旅行者は、北海道に「野生」を期待している

○宿泊客の公園利用状況

- ・雪中サッカーや雪だるまづくり、そり遊び、歩くスキー
- ・ランニング、散歩

▶周辺ホテルでの情報発信状況

- ・「中島公園散策マップ」を作成しているホテルもあるが、多くのホテルHPでは、中島公園の内容の紹介はしていない。

▶周辺飲食店の公園活用状況

- ・公園側の店先にイスやパラソルを設置
- ・園内でのキッチンカーの出店



▲中島公園内のキッチンカー出店

課題

- 周辺事業者による公園の積極的活用は見られない。
- 周辺事業者からの公園の魅力発信は少なく、公園との近接をメリットとした集客方法を選択していない。

考察

- 周辺事業者に公園の活用を促す仕組みとは何か。
- 周辺施設を訪れる目的の一つとして、中島公園の魅力を実業者に活用してもらえないか。
- 周辺事業者への、公園の活用方法・事例の周知や、相談窓口設置は活性化につながるか。

2. 公園と周辺事業者との連携

■中島公園地域コミュニティ推進協議会

中島公園内	公園周辺施設・団体
<ul style="list-style-type: none"> ・中島公園管理事務所 ・中島体育センター ・札幌市天文台 ・札幌コンサートホールKitara ・札幌市豊平館 ・北海道立文学館 ・札幌市中島児童会館 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌パークホテル ・プレミアムホテル中島公園札幌 ・渡辺淳一文学館 ・地域力UP↑実行委員会（児童会館の利用者の保護者・等による母親グループ） ・札幌彫刻美術館友の会（市内の彫刻清掃などを行っている団体） ・北海道演劇財団/シアターZOO（パークホテル近くの劇場）

○設置主体

- ・関連する団体や地域との連携を目的に、現指定管理者である札幌市公園緑化協会が立ち上げ

▶公園と周辺事業者の連携アイデア

(周辺ホテルから)

- ・チラシ・イベントカレンダー等の設置や案内
- ・ホテルに囲まれた立地を活かした連携イベントの実施

(指定管理者から)

- ・清掃活動等、公園全体を知る機会となるイベントの実施

▶自由広場の活用

- ・民間企業等が単独で興行を実施できる市内の公園でも限られた場所（物販は制限あり）

3. 周辺に波及させる公園の魅力

▶時間帯別の魅力

- 天文台での天体観測
- ・都心で天体観測ができる唯一の場所
- ・夜間公開は予約がすぐ埋まるほど人気で、子供連れも多い

○周辺ホテルからのアイデア

- ・宿泊客には早朝と夜間帯が狙い目
- ・公園内施設を紹介する散歩企画を立て、ホテルで案内
- ・海外観光客向けにアジアの屋台等が出る夜市を公園内で開催

▶鴨々川ノスタルジア

- ・鴨々川流域の寺やお店、中島公園日本庭園等が会場となり、体験型講座、演奏会、茶会等を楽しめる散策イベント

- ・中島公園では、昔ながらの演芸や商売の様子を再現した「なりわい村」を開催

- ※現在の鴨々川ノスタルジアでは、散策イベントはない。



▲中島公園内日本庭園でのイベントの様子

課題

- 公園と周辺事業者との関係は情報共有程度で、希薄である。
- 周辺事情を考慮した魅力の提供や連携事業が少ない。
- 公園と周辺事業者が活かし活かされる関係となっていない。

考察

- 公園と周辺事業者が連携を深めるための方法とは何か。
- 時間帯毎の取組や文化が感じられる取組は、周辺施設との連携が可能か。
- 自由広場のように制限を設けない区域を増やすなどの柔軟な対応が必要か。

4. 周辺と補完関係を築き回遊機能高める公園運営

- ・自然や歴史等の地域資源を活用し、市内を回遊できる散策マップが作成されている

	MAP名
①	SAPPOROぶらり手帖 中島公園界限
②	創成川・鴨々川 川めぐりマップ
③	ちゅうおう区ウォーキングマップ
④	さっぽろサイクリングMAP
⑤	COPDウォーキングマップ
⑥	Hokkaido BRAW MAP



課題

- 公園周辺のまち歩きマップ等が作成されているが、公園からの情報発信はない。
- 様々な魅力の回遊資源はあるが、回遊性向上の取組はマップが作成されている程度。

考察

- 各種マップと連携し、まち歩きのきっかけを公園から作れないか。
- 川、サイクルポート、市電等を活かした回遊性や、歴史・芸術・文化をテーマにした回遊性の向上が考えられないか。
- 周辺との連携・回遊機能高める公園運営には、運営を担う人材、民間の人材等が必要か。

検討会での主な意見

<①周辺事業者による公園の活用>

- ・周辺事業者の積極的な活用には、初動は行政からのプロモーションが求められ、ある程度軌道に乗ってきた際に相談窓口の必要性が出てくる。
- ・公園と周辺事業者との連携には、地域住民とのコミュニケーションの取り方や、まちづくりとの連動の仕方も検討する必要がある。
- ・すすきの勤務者の健康増進も、市民への魅力向上の一つになるのでは。

<②公園と周辺事業者との連携 ③周辺に波及させる公園の魅力>

- ・MICEは大きな影響があり、公園とMICEの連携などの説明は必要。
- ・既存のホテルでのミーティング、現状ニーズのある中島公園を含めたインセンティブツアー等、将来のMICE施設設置も見据えた取組は考えられる。
- ・MICEと公園との連携を考えた時、双方の魅力向上のために、中島公園側の視点からMICEに求める機能や姿を検討し提案することも考えられる。
- ・中島公園の資源を最大限発揮できるイベント等、公園と周辺事業者の連携方法の成功事例を積み上げることがまずは重要。
- ・指定管理者の創造的な活用には、市民のコーディネート業務を指定管理業務の中にビルドインするなど、体制づくりがまずは必要。
- ・時代の流れに柔軟に対応できるコンテンツや、ターゲットに合わせたものをどう作っていくか。知ってもらうには体験コンテンツが必要で、そのための資源調査や取組を持続的に行う仕組みも模索する必要がある。
- ・公園周辺のまちづくりに本当に必要な人は含まれているのか。市民の日常利用と観光客のバランスを取るには、周辺事業者も入れる必要がある。

- ・公園内外の施設を考えた時の公園の役割は何で、どうマネジメントするか。イニシアティブをとれる人や組織が必要で、MICEもイメージしながら、考えられる組織体やその時に課題になることを議論すべき。
- ・現状、指定管理者への業務の出し方では、周辺事業者との連携もカバーできない。それを連動させるエリアマネジメント組織も必要になる。
- ・エリアマネジメントには、地域で公園を考える必要があり、そこに都市計画を念頭に考えられるキーパーソンが入っている必要がある。
- ・市内の観光客向けのを整理して分散し、市民の利便性の確保も大事。
- ・自由広場での出店は興行か物販か、それで制約があるなら、柔軟な対応も必要。
- ・民間事業者からの自由広場の利用希望があふれている状況ではないと思うので、制限を設けない区域を増やすというのは別の視点では。
- ・多様な人から意見を出してもらえる組織作りが大事。多世代が参加できるWS等、議論できる場があるともよい。市で整理し、仕掛けを作っていく必要がある。
- ・清掃活動等に市民も参加できると、公園全体を知り、自分たちの公園だという意識にもつながる。
- ・観光客向けの夜市等も魅力的だが、時間帯など近隣住民への配慮は必要。

<④周辺と補完関係を築き回遊機能高める公園運営>

- ・中島公園を通る回遊性の地図が様々作られており、サイクリングやウォーキングには魅力的な場所。逆にこのマップがなければ魅力は伝わっていないかも。
- ・現状作成されているマップは観光客向けの側面があり、市民の日常利用のための施設や回遊性向上の取組が必要では。